

学校名 美里町立東児玉小学校

所在地 児玉郡美里町阿那志13

電話 0495-76-0335

1 本校の概要

本校は、県北西部に位置し、上毛三山が見渡せる田園地帯に立地する児童数270人の中規模校である。児童は明るく素直で元気が良く、活発に外遊びをして過ごす子が多い。本校から町立図書館までは約5km、書店は1軒もないため、本に親しませる学校図書館の果たすべき役割は大きい。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・本に親しむ態度や読書習慣に係る取組
- ・学校図書館の整備

(2) 実践の概要

ア 朝読書、読み聞かせ

月曜日の朝を読書の時間に位置付け、全校で読書を行った。1、2、3年生は年間20回読書ボランティアによる読み聞かせを行い、それ以外の日には担任による読み聞かせや自由読書を行った。4年生以上は自由読書を行い、読書量を増やすことができた。児童集会では、図書委員による読み聞かせを行った。図書委員の発表を通して、読書に親しむことができた。



イ 読書記録カードの活用

1、2年生120冊、3、4年生7000ページ、5、6年生は8000ページを目標に掲げ、学校や家庭で読書をし、読み終わったら読書記録カードに記録させた。そして、目標を達成した児童には図書委員会が作成したしおりを、プレゼントした。

ウ 国語科と関連付けた読書活動

国語の年間指導計画には、どの学年でも読書

に関する内容が位置付けられている。

1年生では、『おはなしどうぶつえん』をつくって、本をしょうかいしよう』の単元で、自分の気に入った本の紹介カードを書き、掲示して本への興味を広げることができた。

エ 学校図書館の整備

児童が楽しく本を読める雰囲気を作るために、十社の会の「学校図書館応援プロジェクト」を活用し、窓に物語のウォールステッカーを貼った。本の紹介カードを掲示し、そばに紹介したい本を置き、手に取りやすく工夫した。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

ア 読み聞かせにより、文字を読むのが苦手な児童もお話の世界を楽しむことができた。

イ 読書の目標を決め、達成者を紹介することで児童の読書への意欲が高まった。高学年はページ数を目標にすることで読み応えのある本をじっくりと読むことができた。

ウ 本の紹介カードを掲示し、そばに紹介したい本を置き、手に取りやすくすることで本に興味を持つ児童が増えた。また、図書館の整備により図書室が身近な雰囲気になり、本を借りやすい環境ができ、児童が図書室を楽しんで使えるようになった。



(2) 課題

ア 高学年でも低学年向きの文字が少ない絵本を好む傾向が見られる。学年に合った内容の本を紹介していく手立てを考える必要がある。

イ 業間と昼休みに図書委員が貸出しを行っているが、年間の借りる量が30冊に満たない児童もいるので、声かけの継続が必要である。

(3) おわりに

これからも読み聞かせや朝読書を継続し、学校図書館の環境を整え、読書への関心や意欲を高めていきたい。